

お店ではお客様に対してどのような配慮がされているの？

すべてのお客様に楽しんでいただけるようバリアフリー対応や点字・英字メニュー、分煙などを推進しています。



お客様のお出迎え



「和民」の英字メニューと点字メニュー

バリアフリー

高齢者や体の不自由なお客様を考慮して、スロープの取り付け、手すりの設置、車イスの方用のトイレなどを備えた店舗を積極的に展開しています。スタッフがエレベーターのご案内や入店のお手伝いをしています。



車イス用トイレ

車イス用リフト、スロープ

(車イス用リフトは「和み亭」新江古田駅前店のみ)

車イス対応トイレ設置店舗一覧

P26

点字・英字メニュー

「和民」「和み亭」では点字メニューを、「和民」では英字メニューを別途ご用意しております。

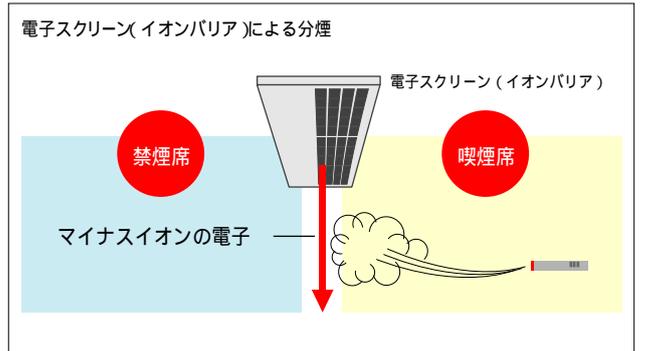
分煙

ワタミグループでは2001年より一部店舗で分煙を実施しています。現在は、原則とし約1割の客席を禁煙席としています。ファミリー需要の高い「和み亭」においては全店で約3割の禁煙席を設置しています。

また、「和民」では新たな取組みとして2003年9月の新規店舗より、電子スクリーン(イオンバリア)による分煙を実施しています。これは禁煙席と喫煙席の境目の天井に設置され、ここからマイナスイオンの電子が天井から滝のように降り注ぎ、煙が禁煙席に侵入するのを防ぎます。今後、既存店舗においても改装時に原則として導入を行ってまいります。



電子スクリーン(イオンバリア)



電子スクリーン設置店舗一覧

P26

バックヤード

センサー式水道

食品衛生法では、調理、給仕に仕える者は必ずその都度手を洗うことが定められています。ワタミグループでは水の出っぱなしを防いだり、蛇口を衛生的に保つため、センサー式の手洗い専用の水道を設置しています。



センサー式水道

ゴミ分別

店舗では、ゼロエミッションを念頭に、徹底したゴミの分別を実施しています。現在は、店舗での生産性を落とさず、アルバイトメンバーも取組みやすく、さらにその後のリサイクルの流れと整合性の取れる10分別(関西・九州地区では5分別)を取組んでいます。



ゴミの分別

お店での環境配慮や社会貢献の取組みについて教えて？

消耗品のグリーン資材化をはじめとした環境配慮を徹底している他、レジ周りでは社会貢献活動のご案内をしています。



営業中の店内



レジ周り:「スクール・エイド・ジャパン」募金箱とパンフレット

割箸袋

ワタミグループでは、店舗で使用される紙の量を少しでも削減することができるように、2003年より割箸袋を2分の1のサイズにしました。もちろん、使用した割箸袋は継続してトイレトーパーパーにリサイクルしています。

紙ナプキン

2004年9月より、植林して適切に管理された植林木から作った紙ナプキンへ変更していくこととしました。この植林木は、荒れた土地など、もともと木のなかったところなどに、ユーカリやアカシアなどの生長の早い木を毎年違う土地に植えていくので、伐採と植林を繰り返しながら行ないます。

厨房機器

ワタミグループ店舗には、環境に配慮した省エネルギー・省スペースの厨房機器が設置されており、これらの設計・設置はワタミエコロジー(株)によって行われています。この施工の基本的考え方は、定期的な点検・メンテナンスを中心に、機器の長寿命化を図り、それによってムダに買い換えることを控え、資源を有効利用することを目標としています。また、閉鎖や改装などによる使用済みの厨房機器は、リユース品として再利用することを基本としています。

リサイクルボード

店舗でお客様が利用した割箸を木質資源としてルート回収し、ワタミエコロジー(株)のリサイクルセンターに集積した後、まとまった単位でリサイクルボード工場に運んでいます。これらの割箸は、店舗お座敷の下地材などとして生まれ変わり、店舗の新築や改装時に順次導入しています。これは循環型リサイクルの成功例となりました。ワタミグループでは、2003年度1年間で、68t(4,224枚 約61店舗分)のリサイクル下地材を導入しました。

グリーン購入の基準

本社や店舗での事務用品や備品は、グリーン商品を優先的に購入することを目標として、2003年度は店舗事務用品グリーン資材使用率70%を目標に取組み、結果72%の使用率を達成することができました。また、本社内で使用される机やロッカーなどの備品は、極力リユース品の調達を心がけ、循環型社会の形成に積極的に取組んでいます。

募金箱

ワタミグループが支援する特定非営利活動法人「スクール・エイド・ジャパン」では、子どもたちの教育支援をする活動を行っており、その募金箱および寄付申込みパンフレットを全店舗に設置しています。

「スクール・エイド・ジャパン」について詳しくは P17

ふれあいカード

ふれあいカードはワタミグループでの特典がついた、社会貢献できるクレジットカードです。

ふれあいカードについて詳しくは P15

ISO

1999年7月、日本の外食産業で初めて、本社および店舗においてISO14001環境マネジメントシステムの認証を取得しました。ISO9001品質マネジメントシステムの認証についても2002年10月に取得しました。

ワタミグループでは、店舗の出店に合わせて毎年、認証店舗を拡大しています。

取得した店舗にはISOのパネルを掲示しています。

ISO14001について詳しくは P21

ISO9001について詳しくは P25



レジ周り:「ISO9001」と「ISO14001」のパネル

「和み亭」のおもちゃ

「和み亭」では、ハンディキャップのある方が作った手づくりのおもちゃなどの授産品をお預かりし、レジ横にて展示して、スタッフが代行して販売をしています。

「和み亭」のおもちゃについて詳しくは P16

お店が閉まった後はどのようなことをしているの？

ゼロエミッションに向けたリサイクル活動に力をいれています。首都圏100店舗でゼロエミッションを達成しました。



消灯後の店内



生ゴミ



破砕乾燥された後

消灯

電気使用量削減のため、営業終了後は客席や看板の照明を消し、片付けも営業終了後1時間以内で終わるようにしています。

使用電力監視システム

2004年8月より、店舗の使用電力を一元管理するためのモニター機器を293店に導入しました。電気のムダに対してタイムリーな対策を打つ事により、2004年度は、全店舗で前年比約7%の電気使用量を削減することを目指していきます。

使用電力監視システムについて詳しくは P13

空調

空調機器も月に1回以上点検・清掃するようにしています。フィルターの清掃は、ムダな電気の使用を抑え、点検修理による機器の長寿命化に貢献します。空調機器は定期メンテナンスの実施により、電気使用量を約14%削減することができます。

グリストラップ

厨房内から出た油や汚泥(残さ)を下水処理場に流れるのを防ぐグリストラップ。清掃を怠ると雑菌や汚臭の発生源となってしまうため、第1槽内網カゴの毎日清掃と定期的バキューム清掃を行っています。

また、排水の水質改善状況の検証のため、グリストラップ内の水質検査を定期的に行っています。

生ゴミ破砕乾燥機

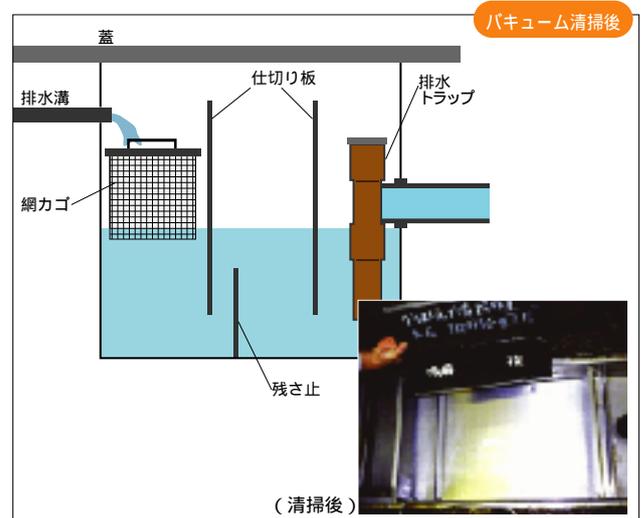
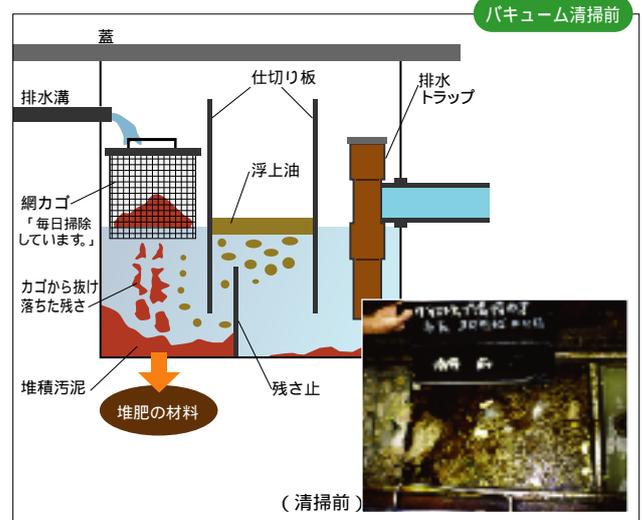
2004年8月現在、首都圏の約100店舗に生ゴミ破砕乾燥機を導入しました。

この機器を稼働させることにより、1回に25kgの生ゴミを6時間後に7kgの乾燥物にすることができます。

この乾燥物は、リサイクルセンターを経由してワタミファームに運ばれ、農場の堆肥となっておいしい有機野菜を育て、食材として再び店舗に戻ってきます。

この生ゴミ堆肥化の実現によって、排出からリサイクル利用までをワタミグループ内で行なえる循環の輪がつながり、いよいよグループ店舗のゼロエミッション達成が強力に推進されました。

グリストラップの仕組みとワタミグループでの対応



2004年ゼロエミッションを達成

ワタミグループでは「2004年ゼロエミッション」を目標に、1998年より廃棄物の6分別からスタートしました。2002年には10分別に挑戦してリサイクルセンターを設置・稼働させることにより店舗全体の廃棄物の約40%を占める容器包装系のゴミのリサイクルに成功しました。

さらに2003年より、生ゴミ破碎乾燥機を店舗に順次導入して、店舗で破碎乾燥された生ゴミをワタミファームに運んで堆肥化することによって、店舗の全廃棄物の残り50%を占める生ゴミの減容とリサイクルの仕組みができあがりました。



店舗活動 2003年度実績 (IN-PUT/OUT-PUT フロー図)

ワタミグループの店舗には、日々様々な原材料などの「IN-PUT(投入)」と「OUT-PUT(排出)」が発生しています。それぞれは1店舗では少ない量に思えますが、グループ店舗全体となりますと決して少ない数値ではなくなります。私たちはこれらの投入量・排出量を認識し、少しでも有効なりデュース(排出抑制)・リユース(再利用)・リサイクル(再生)の3Rへの取組み方を常に模索しています。



リサイクル量: 3.0t (全店舗におけるリサイクル率は14.3%) リサイクルセンターへの搬入店舗(東京都23区内の店舗)のリサイクル率は42.0%
 CO₂発生量(1店舗あたり): 96.7t-CO₂(電気/ガス使用量で算出)

1: ピン・缶・ペットボトルのOutputの増加分は、従業員・お客様の持ち込み分、および店頭清掃時の回収によるものです。

使用電力監視システムの導入について

ワタミグループでは、京都議定書で定められた6%という日本の削減目標に対して、昨今の外食を含めた商業施設によるCO₂の排出量増加傾向を踏まえ、私たちが排出するCO₂はまず、私たちが率先して取組んで、地球温暖化の防止に役立てなければならぬと考えています。

2004年8月より私たちは、エネルギーマネジメントに取り組んでいます。

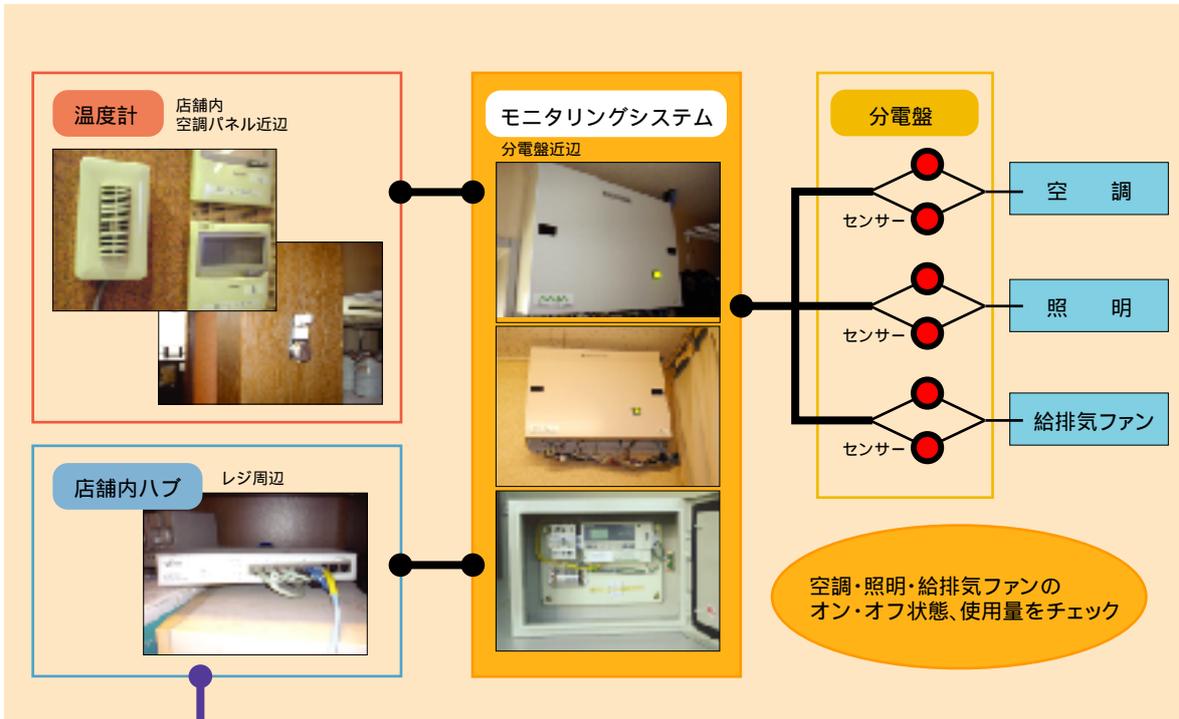
まず、手始めにワタミグループ293店舗での電気の使われ方を24時間監視し、ムダな電気使用を発見して、その抑制を行なうという使用電力監視システムの導入をスタートさせま

した。この仕組みの導入により、今まで原因が判らず対策が打てなかった電気使用量に関する過負荷やムダは、店長はじめアルバイトメンバーたちの、発生原因に対するタイムリーな対応とオペレーション改善によって排除していくことができるようになります。

こうして電気の消費を抑えることは、電気コストの低減を図るだけでなく、発電の過程に排出される膨大なCO₂の発生を抑制し、地球温暖化防止に大きな効果をあげるとともに、天然資源の節約につながります。

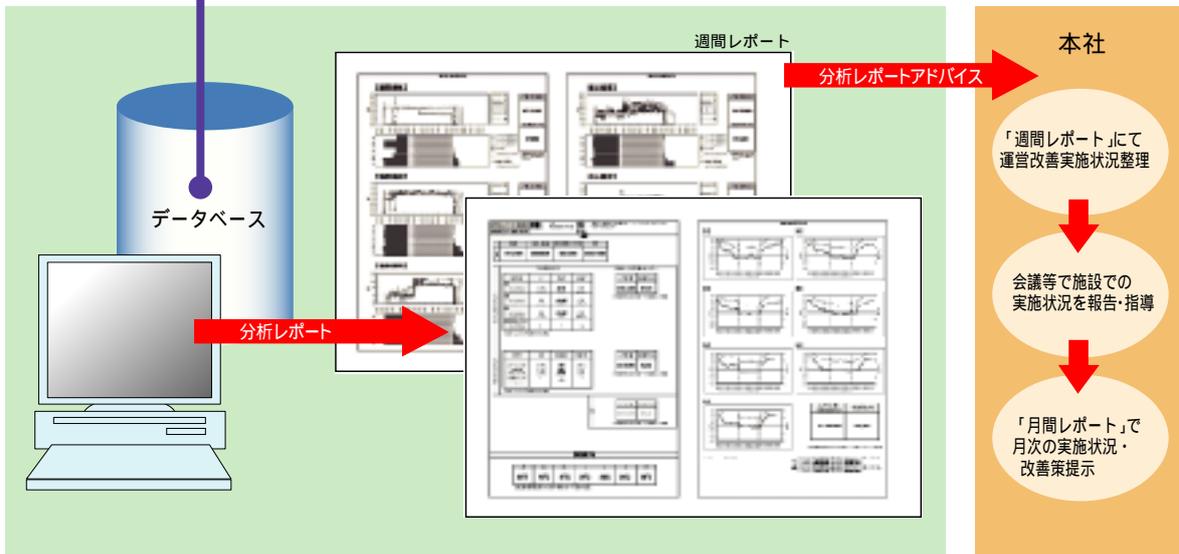
エネルギーマネジメントの仕組み

ワタミグループ店舗内



LAN

使用電力監視システム



「禁断転載」